

| | |
|--------|--------------------------|
| ○課題名 | 「アジア太平洋地域インターネット防護体制の確立」 |
| ○代表者名 | 「山口 英」 |
| ○中核機関名 | 「奈良先端科学技術大学院大学」 |

課題の目標・概要

1. 目的

重要インフラであるインターネットでは近年セキュリティ問題が頻発しており、サイバーテロの危険性も指摘され、高度な防護技術の開発と展開が急務である。インターネットの国際性を勘案すれば、わが国単独でのインターネット防護だけではなく、国際間の連携活動が必要とされている。本課題では、アジア太平洋地域におけるCSIRT間の連携体制を構築し、発生したセキュリティ問題の解析を支援する基盤構築、セキュリティ技術検証、さらに、CSIRT設立を含めた発展途上国の技術支援基盤を構築し、アジア太平洋地域のインターネット防護レベルの持続的向上を目指す。

2. 内容

- (1) アジア太平洋地域のCSIRT間での情報共有基盤の構築。特にRFC3067に基づくインシデント情報交換基盤の構築と、脆弱性情報を共有するためのセキュアな情報リポジトリの構築
- (2) 発展途上国におけるCSIRT設立のためのスタートアップパッケージの開発と設立支援
- (3) APEC TEL WG, ASEAN, ASEM等アジア太平洋地区の政府主導国際間セキュリティ対策グループへの専門家の派遣
- (4) アジア太平地区のCSIRTの国際課題検討フレームワークであるAPCERTFの設立と会議開催
- (5) インターネットのセキュリティ強化に資する技術と実際に発生した問題の解析を行う検証センターの構築

3. アジア諸国とのパートナーシップの観点

本課題提案代表者は平成14年3月よりアジア太平洋地域におけるCSIRTの国際課題検討フレームワークAPCERTFの設立準備を各国CSIRTと共同して進めている。APCERTFに参加するCSIRTは、政府組織や政府外局であることが多く、この活動はアジア諸国との直接的かつ強固なパートナーシップを形成する。また、沖縄サミットや上海APECで発表された、わが国政府のアジア諸国に対するコミットメントの実行に直結する。

4. 複数機関間連携の必要性

本課題の実施ではアジア太平洋地区的CSIRTと共同して活動を展開しなければ、本課題の成果を実際に展開させる具体性が得られない。また、わが国国内においても、インターネットセキュリティに関わる組織が複数あり、これらと共同して活動展開することが必須となる。

5. 推進委員会を構成する機関・組織等

奈良先端科学技術大学院大学(代表者),コンピュータ緊急対応センター(JPCERT/CC),APCERTF参加各国CSIRT(予定)等

諸外国の現状等

1. 現状

アジア太平洋地域では、CSIRTを持たない国が数多く存在する。また、欧州や北米地域のような地域での国際課題検討フレームワークもアジア太平洋地域では設立されていない。このため地域での連携体制の確立とCSIRT設立支援が急務となっている。欧州においては欧州評議会が推進する次世代インターネット開発プロジェクトTERENAによって、EuroCERTとして各国CSIRTの設立と情報共有基盤の構築が積極的に進められ、一定の成果を上げている。しかし、TERENAにおいてもより積極的な技術基盤をもった連携ではなく、研究開発の対象としても重要である。この領域では2002年よりIETFにおいても技術標準化の活動が始まっており、わが国からも積極的な参加が求められている。

2. 我が国の水準

欧米先進国と比較した場合、わが国はCSIRTを支える技術、連携体制面でも遅れをとっている。しかしながら、アジア太平洋地域では依然として主導的な立場にあり、その積極的な活動展開も各国から期待されている。

課題の実施により期待される効果

本課題の実施を行うことにより、アジア太平洋地域でのインターネットというインフラ防護の主導的な役割を果たすことができる。また、CSIRTを持たない発展途上国へのCSIRT設立支援と技術協力を積極的に進めることによって、国際的なセキュリティ対策活動に於ける未整備地域の解消が期待される。これらによって、インターネットにおけるセキュリティ問題の遞減やサイバーテロの抑止環境実現に寄与するものと思われる。

実施体制図

○課題名 「アジア太平洋地域インターネット防護体制の確立」
○代表者名 「山口 英」
○中核機関名 「奈良先端科学技術大学院大学」

平成
一
四
年
度

アジア太平洋地域における国際課題検討フレームワークの運営
情報共有基盤実現のための調査研究技術開発
・ 担当機関 奈良先端科学技術大学院大学
(コンピュータ緊急対応センター (JPCERT/CC))

平成
一
五
年
度

アジア太平洋地域における国際課題検討フレームワークの運営
情報共有基盤実現のための調査研究技術開発
・ 担当機関 奈良先端科学技術大学院大学
(コンピュータ緊急対応センター (JPCERT/CC))

平成
一
六
年
度

アジア太平洋地域における国際課題検討フレームワークの運営
情報リポジトリの構築・運用 (情報共有基盤環境の構築)
・ 担当機関 奈良先端科学技術大学院大学
(コンピュータ緊急対応センター (JPCERT/CC))

※ なお、AusCERT(オーストラリア)、CERT-CC/KR(韓国)については海外組織のため各組織での独自予算に基づいて活動を行う予定 (したがって両組織に対する配分は0)

期待される効果

1. アジア太平洋地域におけるCSIRT間の連携体制の構築、及び、発展途上国への技術支援
2. セキュリティ関連問題の解析を支援する基盤構築、及び、技術検証環境の整備